



持続的成長へ運営シフト

4月から北東北3県の事業拠点を青森に統合し、福島も2拠点を一つに集約するなど工事量に見合った適正規模の支店運営にかじを切った。「今後は地域ニーズに応じ対応を進めていく」と説く。市

場の縮小傾向が続く状況でも「現状を維持しながら将来の発展を模索するのが使命」と述べ、若手育成や多様な働き方への対応を重点に据える。主力の官庁工事に加え、民間元請工事の拡大にも取り組

再エネ関連や橋梁補修、高速道路の舗装・切り替えなどにも積極的に関わり、経営の安定と発展の両立を目指す。働き方改革にも積極的に取り組み、支店では週休2日取得率99%を達成している。今後も若手や中堅職員が「果敢にチャレンジし、上司が成長を見越したアドバイスで後押しする文化を根付かせたい」と意気込む。従来の「一人で完結するやり方」を見直し、分業やフォロー体制を整える。「誰もが話しやすく、助け合える職場環境づくり」に取り組む。

む方針で「昨年度は目標の元請比率5割に達した」という。今後の重点分野には工場など民間施設の下水道や埋設管の調査・維持管理業務の拡大を挙げた。地下インフラメンテナンス分野の深耕にも意欲を示す。「調査・提案から定期的な改修まで一貫して提案できる体制を築きたい」と述べる。

（1991年東和大学工学部建設工学科卒。福岡県出身、56歳）

